

2-10 下水汚泥からの再生リンを原料にした混合堆肥肥料 (JA全農ふくれん)

○ 全農ふくれんは、県内JAで生産される堆肥と福岡市の下水汚泥回収（再生）リンを混合したペレットタイプの新たな指定混合肥料（e・greenシリーズ）を開発し、2022年9月から販売開始。

■国内資源の種類 ■肥料の種類・肥料名称

- ・牛ふん、豚ふん堆肥
 - ・下水汚泥再生リン
- ・指定混合肥料
 - ・粒状ペレット（短）
 - ・e・greenシリーズ（4銘柄）
○e・green8-8-8,7-7-7,14-5-5,12-14-10

■作物 ■主成分の含有量（％）、特徴等

- ・麦
- ・大豆
- ・野菜
- など

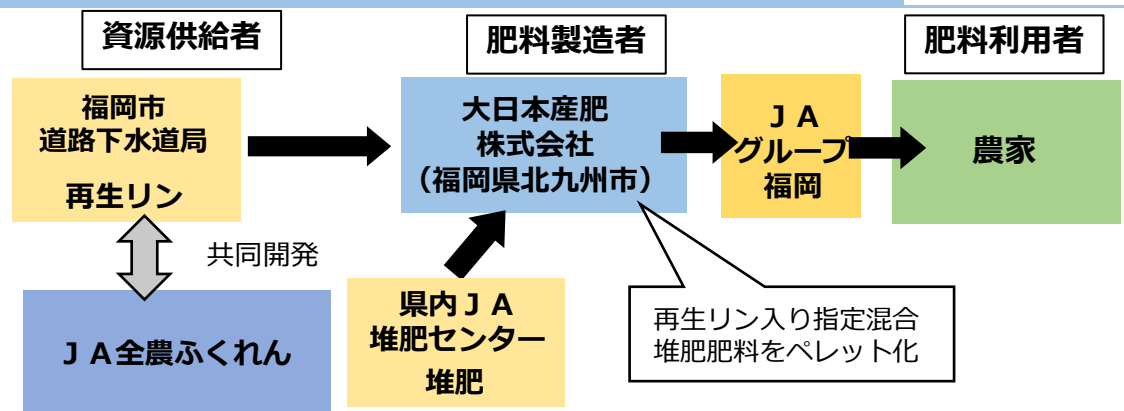
e・green	N	P	K	苦土	堆肥
8-8-8	8	8	8	-	豚ふん
7-7-7	7	7	7	-	牛ふん
14-5-5	14	5	5	-	豚ふん・牛ふん
12-14-10	12	14	10	2	豚ふん・牛ふん

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

- 取組の経緯
- ・2021年、JAふくおか八女産堆肥を40%使用した指定混合肥料（ペレットタイプ）を開発し、販売を開始。
 - ・一方、福岡市では、博多湾の富栄養化の原因であるリンの処理対策として、MAP設備で回収したリンの有効活用が課題。
 - ・2022年、福岡市よりJA全農ふくれんに当該回収リンの肥料への活用について提案があり、肥料製造メーカーと協力して、JAふくおか八女の堆肥入りペレットを原型に、県内JAで生産される堆肥と回収（再生）リンを混合した新たな有機質配合肥料（e・greenシリーズ）を開発。

- 取組の内容
- ・JAが関係する堆肥センターでは慢性的な余剰堆肥があり、JAふくおか八女での取組を拡大して、再生リンと融合した肥料の銘柄化を検討。
 - ・県内家畜由来の堆肥と福岡市の下水汚泥由来の再生リンを原料とする有機質配合肥料の活用、その肥料を用いて生産した農産物を消費者に届け、そこから再びリン回収・堆肥化という県内資源循環型農業を構想して事業化。
 - ・2022年8月、JA全農ふくれん本部長と福岡市道路下水道局長にて、一体となり普及に取り組むことを発信。

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

- ・e・greenの肥効の検証・栽培データの蓄積。
- ・ペレット肥料の更なる普及を後押しする技術開発。
- ・地域堆肥センターにある余剰分堆肥を、広域の堆肥センターに集約する取組。
- ・地域の新規未利用資源（焼酎粕やコーヒー粕等）の利用。